

令和6年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」 における苅田小学校の結果の分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和6年4月から令和6年7月末までの期間に、5年生を対象として、「実技に関する調査」と「質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、体力等の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの体力向上をめざしています。

1 調査の目的（全国体力・運動能力、運動習慣等調査に関する実施要領より抜粋）

- （1）子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- （2）各教育委員会、各国公私立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- （3）各国公私立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

2 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第5学年、義務教育学校前期課程第5学年、特別支援学校小学部第5学年の原則として全児童
- ・苅田小学校では、5年生 93名

3 調査内容

- ・児童に対する調査

ア 実技に関する調査（以下「実技調査」という。測定方法等は新体力テストと同様）
小学校調査では、以下の種目を実施する。

〔8種目〕 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、
50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

イ 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査（以下「児童質問紙調査」という。）
を実施する。

令和6年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果検証

学校の概要

大阪市立荻田小	学校	児童数	93
---------	----	-----	----

平均値

5年生	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール 投げ	体力合計点
男子	14.40	19.33	28.27	18.43	45.06	9.53	142.69	18.31	43.78
大阪市	15.78	19.09	32.72	38.56	45.05	9.52	147.96	20.45	51.13
全国	16.01	19.19	33.79	40.66	46.90	9.50	150.42	20.75	52.53
女子	14.08	17.46	29.15	17.77	34.97	9.82	135.23	11.90	43.95
大阪市	15.64	18.06	37.62	36.76	34.65	9.83	139.56	12.71	52.47
全国	15.77	18.16	38.19	38.70	36.59	9.77	143.13	13.15	53.92

結果の概要

○男子においては、20mシャトルランで大阪市平均を上回っている。しかし、他が下回っているため、体力合計点は大阪市平均を大きく下回る結果となっている。質問紙より「学校の授業以外での、1週間の総運動時間が60分未満の児童の割合」が13.2%(市平均11.0%)だったことから、体を動かす機会が少ないことが課題である。一方で、質問紙「運動やスポーツをすることが好きですか」に対して肯定的な回答をする児童は94.4%で、大阪市平均(93.4%)を上回っている。

○女子においては、20mシャトルランおよび50m走で大阪市平均を上回っている。しかし、他が下回っているため、体力合計点は大阪市平均を大きく下回る結果となっている。質問紙より「学校の授業以外での、1週間の総運動時間が60分未満の児童の割合」が20.5%(市平均19.9%)だったことから、体を動かす機会が少ないことが課題である。一方で、質問紙「運動やスポーツをすることが好きですか」に対して肯定的な回答をする児童は89.7%で、大阪市平均(84.5%)を上回っている。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

昨年度の結果を受け、本年度も、昨年度に引き続き、瞬発力を高める運動を体育科の学習で取り入れることと、すすんで運動に取り組む児童を育てることを目標に取り組んできた。本調査は、5月実施のため、本年度の取組の成果が表れるには、まだ少し期間が必要である。男子・女子ともに、体を動かす機会の少なさがそのまま体力・運動能力の結果につながっていると考えられるため、昨年度と同じように、体育科の学習の延長で自らすすんで休み時間などに体を動かせるようなゲームなどを、体育科の学習に取り入れるなどのくふうが必要である。家庭や体育科での取組が成果となるように、体育科の学習において種目にスポットをあてて集中的に取り組む必要がある。本年度よりプール改修工事もあり、運動場のスペースも限られているため、本年度も引き続き、体力の向上よりも瞬発力を高める運動にスポットをあてて取り組んでいきたいと考えている。